

オーストラリアン・シェパード

イラスト付きケアガイド



名前とは異なり、現在のオーストラリアン・シェパードはアメリカで発展しました。牧羊犬の知的活動、適した運動、被毛の手入れ、落ち着く練習を組み合わせます。

犬種のケア、時刻の例、ライフステージ、共有記録用紙。睡眠と休息の予定。

一般的な情報であり個別の治療計画ではありません。時刻は例です。食事量、運動、薬はその犬に合わせます。画像は編集用イラストで医療図ではありません。

[最新の犬種ページを読む](#)

この犬種のケア

この犬種のケア情報を参考に、年齢、現在の体重、体の状態、体格、体力、健康、動きやすさ、性格、天候、家庭の生活に合わせて調整します。性別だけでは決まりません。避妊・去勢、発情、妊娠、授乳も考慮し、変更は獣医師に相談します。

活動と環境エンリッチメント

短いごほうび課題やにおい探しを用意します。家畜の近くではリードを使い、子どもや他の動物との交流を見守ります。牧羊行動は個体差があります。

被毛と日々の衛生

PDSAは週に数回、換毛期にはより頻繁なブラッシングを勧めています。脚の後ろの長い毛を確認し、散歩の付着物を優しく取ります。

健康と注意する変化

一部の犬には特定の薬への遺伝性の過敏性があります。投薬前に獣医師と相談してください。新たな跛行、目の変化、発作を記録して動物病院に相談します。犬種のリスクだけでは診断できません。

犬の散歩を予定する

におい探索の道や学習を変えます。強度を上げるより、静かに終わるほうが合う場合もあります。時刻例はその活動に慣れた健康な成犬だけの参考です。天候、回復の様子、獣医師の助言に合わせて変えてください。

公表されている一日の運動目安: 少なくとも 120 分 / 日

犬種の一般的な参考値で、個々の犬の目標ではありません。運動は適した散歩や遊びを含み、連続した走行ではありません。下記はその活動に慣れた健康な成犬向けの編集上の例です。体力、天候、獣医師の助言で調整し、時間達成を強制しません。

子犬

成犬の運動時間を使いません。起床、食事、遊びに合わせて穏やかな外出と休息を設けます。成長と安全な接触を相談します。「月齢ごとに5分」という固定ルールに科学的根拠はありません。

高齢犬・動きにくい犬

無理なくできる活動を楽な外出に分けます。こわばり、足を引きずる、回復が遅い場合は記録し、獣医師に時間を決めてもらいます。年齢だけで食事変更や運動中止が必要になるわけではありません。

性別と繁殖の状態

発情期は静かな道を選び、望まない交配を防ぎます。避妊・去勢後は散歩時間を自動で変えるより体重と量を確認します。妊娠・授乳は個別計画が必要です。性別だけで違う時刻が必要になるわけではありません。

毎日の予定を立てる

下記の成犬の予定は新生児や衰弱した高齢犬には使えません。まずそのライフステージのケアを確認します。

家庭に合わせて時刻を動かします。食事前は静かに回復させ、食事と運動の間隔は獣医師に確認します。必要な排泄の外出も追加します。投薬はこの表ではなく処方に従います。

時刻	ケア	所要時間 / 量
06:30	散歩 / 適した活動	40 min
08:00	食事	決めた一日の食事用量の½
13:00	散歩 / 適した活動	30 min
18:00	散歩 / 適した活動	50 min
20:00	食事	決めた一日の食事用量の½
22:30	就寝前の排泄	必要に応じて

犬の食事を予定する

年齢に合った総合栄養食を使い、ごほうびも含めて相談済みの一日量を守ります。量は獣医師と見直してください。犬種の体重範囲から食事量は決まりません。訓練のごほうびは一日量から取り分けます。

多くの健康な成犬では、08:00と20:00の12時間間隔の2食が出発点になります。一日分を量り、ご褒美用を取り分けてから食事分を分けます。この犬種全員に合う一律のグラム数はありません。

離乳後の子犬の一般的な食事目安：4か月未満は4食（07:00、11:00、15:00、19:00）、4～6か月は3食（07:00、13:00、19:00）、6か月以降は2食への移行を相談します。時刻は例で、絶食の決まりではありません。とても小さな子犬、病気、処方食の場合は個別に確認します。

睡眠と休息の予定

PDSAは個体差を前提に24時間で14～16時間以上の睡眠を目安としています。昼寝と夜の睡眠を合計します。静かな休息が必ず睡眠とは限りません。

健康な成犬の休息時間帯の例

時間帯	休息の機会
22:45 - 06:30	静かな夜の時間
09:00 - 12:00	邪魔されない昼の休息
14:00 - 17:00	邪魔されない昼の休息
20:30 - 21:30	邪魔されない昼の休息

この時間帯は14時間45分の静かな環境を用意する例で、睡眠を保証せず閉じ込める予定でもありません。他の時間にも眠れるようにし、必要な排泄に対応します。快適で利用しやすい寝床、静かな場所、昼の自然光と夜の薄暗さ、水を用意します。

子犬

離乳後の子犬についてAKCは1日約18～20時間の睡眠と、よくある30～120分の昼寝を説明しています。短い活動後は静かに休ませ、起床時は排泄の機会を設けます。夜間の排泄も必要な場合があります。成犬の予定を適用したり合わせるために起こしておいたりしません。

新生児：生後2週間

新生児の睡眠は授乳、保温、決めた確認に合わせます。孤児の給餌は指示どおり夜も続けます。成犬の夜の時間帯で給餌や診察を遅らせません。

とても高齢・虚弱な犬：快適さを優先

高齢・虚弱な犬は一律の睡眠時間でなく快適な休息を守ります。使いやすい寝床と排泄補助を用意します。新しい夜間の歩き回り、混乱、あえぎ、繰り返す覚醒は痛みや健康、睡眠覚醒周期の評価が必要です。自己判断で睡眠薬を与えません。

落ち着いた時刻、推定睡眠、覚醒、排泄の必要、補助した人を共有します。普段のパターンと比べ、寝床にいる時間を睡眠とみなしません。

持続的・急な睡眠変化、落ち着けない状態、日中の無気力は相談します。起こしにくい、倒れる、呼吸困難は緊急受診が必要です。

犬の投薬を予定する

この犬に処方された薬だけを予定に入れます。薬名、処方量、投与方法、間隔、開始・終了日、食事に関する指示、実際に投与した人と時刻を記録します。獣医師の指示による予防薬も含めます。飲み忘れや異常があれば動物病院に相談し、自己判断で倍量にしたり治療を変えたりしません。Nuzzlewayはリマインダーを整理し、処方はいりません。

処方された間隔	時刻
24 h	08:00
12 h	08:00 / 20:00
8 h	06:00 / 14:00 / 22:00

その間隔が処方された場合のみ：24時間ごと->08:00、12時間ごと->08:00と20:00、8時間ごと->06:00、14:00、22:00。間隔の例であり、治療の選択肢ではありません。開始時刻、食事条件、遅延・飲み忘れ・吐き出し時の対応を動物病院に確認してから通知を設定します。

ケアの予定を共有する

散歩、食事、処方薬の担当を決め、家族やペットシッターに時刻と注意事項を共有します。実施した内容に時刻と担当者を記録し、次の人が重複する前に確認できるようにします。Nuzzlewayに決めた日課と観察をまとめ、必要に応じて見直します。

引き継ぎ例：「18:40 - アレックスが25分散歩、楽に休めました。夕食は未実施。投薬前に記録を確認」。通知だけでなく実施時刻と完了を残します。



新生児：生後2週間

散歩や成犬の食事時間は使いません。母犬といる場合は各子犬が十分に吸乳できるか確認し、うまくいっている授乳を哺乳瓶の予定に置き換えません。

1. 母犬がいない、または吸乳できない場合は速やかに獣医師に相談し、犬用代用乳と与え方の実演を受けます。生後1週の孤児は夜間も含め通常2～4時間ごとの給餌が必要です。3時間ごとと決めた場合のみ、00:00、03:00、06:00、09:00、12:00、15:00、18:00、21:00が例です。量は体重と製品により異なります。
2. 巣を暖かく乾燥した状態にし、隙間風を避け、熱源から離れられる場所を設けます。日齢に合う温度を確認し、直接の熱や火傷を避けます。冷たい、弱い子犬は給餌前に緊急の助言が必要です。無理に飲ませたり、指導なしに注射器やチューブを使ったりしません。
3. この2週間は各子犬を毎日グラム単位で量ります。同じ時刻、給餌との同じタイミング、例えば08:00に記録します。群れの平均でなく個別に記録し、減量や増えない場合は速やかに相談します。
4. 通常は母犬が排泄を助けます。孤児では給餌後に温かい湿った綿で優しく刺激する方法を教わり、尿と便を記録します。
5. 夜の担当を分け、給餌した人、時刻、指示された代用乳の摂取量、体重、変化を残します。交代前に次の確認を決めます。

吸乳しない、冷たい、著しい衰弱、泣き続ける、下痢、呼吸困難は緊急の獣医師への相談が必要です。次の給餌まで待ちません。

とても高齢・虚弱な犬：快適さを優先

虚弱になる年齢は一律ではありません。立ち上がりにくさ、消耗、食欲や睡眠の変化を、成犬の運動時間より重視します。

1. 起床、食事前後、就寝前に排泄の機会を用意します。確認時刻の例は07:00、12:00、18:00、22:00で、必要なら追加します。歩ける時間は獣医師と決め、短い外出も難しい場合は無理をせず補助を相談します。
2. 08:00と20:00などに、快適さ、実際に食べた量、飲水の変化、排泄、立ち上がり、睡眠、好きな活動への興味を記録します。確認やケアをこの時刻に限定しません。
3. 滑りにくい道、利用しやすい快適な寝床、届きやすい水と食事を用意します。慣れた道を使い、立つ補助が必要なら合う補助ハーネスを相談します。
4. 出した量と食べた量を記録し、体重や筋肉の減少を伝えます。年齢だけで食事やたんぱく質を減らさず、強制給餌や処方食の自己変更を避けます。薬とサプリを確認し、実際の投与を記録します。
5. 痛みの管理、夜間のケア、再評価を相談します。楽な休息や楽しめる活動が失われる場合は、生活の質と緩和ケアを相談します。

倒れる、呼吸困難、急に立てない、強い痛み、尿が出ない場合はすぐ受診します。新たな混乱、食欲低下、転倒の繰り返しも「年齢のせい」で済ませず早めに評価してもらいます。

共有ケア記録用紙

現在のケア計画に沿って記入します。実際のケアを記録して次の担当者に引き継ぎます。

犬の名前

生年月日 / 年齢

性別 / 避妊去勢

現在の体重 / 日付

健康 / 移動の補助

フード / 合意した1日量

薬 / 処方の指示

獣医師 / 緊急連絡先

主な担当者 / 電話

予定時刻	ケア / 合意した量	実際の時刻 / 担当者	メモ / 次の対応

情報源と参考資料

一般的な情報であり個別の治療計画ではありません。時刻は例です。食事量、運動、薬はその犬に合わせて
ます。画像は編集用イラストで医療図ではありません。

[最新の犬種ページを読む](#)

1. PDSA・オーストラリアン・シェパード

<https://www.pdsa.org.uk/pet-help-and-advice/looking-after-your-pet/puppies-dogs/large-dogs/australian-shepherd>

2. AKC・オーストラリアン・シェパード

<https://www.akc.org/expert-advice/dog-breeds/australian-shepherd-right-for-you/>

3. AAHA

<https://www.aaha.org/resources/2021-aaha-nutrition-and-weight-management-guidelines/home/>

4. PDSA

<https://www.pdsa.org.uk/pet-help-and-advice/looking-after-your-pet/puppies-dogs/exercising-your-puppy>

5. UK Pet Food

<https://www.ukpetfood.org/pet-care-advice/advice-for-dogs/feeding-guides-for-dogs-puppies/puppy-nutrition-created-as-a-page.html>

6. FDA

<https://www.fda.gov/animal-veterinary/animal-health-literacy/medications-your-pet-questions-your-vet>

7. VCA

<https://vcahospitals.com/know-your-pet/feeding-orphaned-puppies>

8. Merck Veterinary Manual

<https://www.merckvetmanual.com/management-and-nutrition/management-of-the-neonate/management-of-the-neonate-in-dogs-and-cats>

9. AAHA

<https://www.aaha.org/resources/2023-aaha-senior-care-guidelines-for-dogs-and-cats/evaluating-the-healthy-senior-pet/>

10. AAHA

<https://www.aaha.org/resources/2023-aaha-senior-care-guidelines-for-dogs-and-cats/nutrition/>

11. PDSA

<https://www.pdsa.org.uk/what-we-do/blog/dogs-and-sleep-our-top-tips-for-your-furry-friend>

12. AKC

<https://www.akc.org/expert-advice/health/how-much-do-puppies-sleep/>

13. AAHA

<https://www.aaha.org/resources/2023-aaha-senior-care-guidelines-for-dogs-and-cats/managing-cognitive-dysfunction-and-behavioral-anxiety/>